

第3日（6月20日）

8 青島悦世 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求める者 病院事業管理者

焼津市病院事業における「医療の質」を向上させるためには何をすべきか
市立総合病院の建て替えは、病院事業のソフトとハードを刷新する好機である。本質問を通じ、本年度より着手する設計にむけ、課題を整理していきたい。

まず、国の動向である。団塊のジュニア世代が65歳に到達し始める2035年頃を見据え、厚生労働省が2015年6月に発表した「保健医療2035提言書」がある。この提言書によると、これまでの保健医療制度を規定してきたパラダイム（根底の価値規範、原理、思想）を次のように根本的にシフト（転換）すべきとしている。

- ・量の拡大から質の改善へ
- ・インプット中心から患者にとっての価値中心へ
- ・行政による規制から当事者による規律へ
- ・キュア中心からケア中心へ
- ・発散から統合へ

次に、当市の動向である。当市では市立総合病院の建て替えが予定されており、本年度より設計に着手する見込みである。新病院建設は病院事業のソフトとハードを刷新する好機であり、刷新の巧拙は現状把握（今何ができていて、何ができていないのか）と目標設定（何をしていくべきか）の精度によるといえる。

つまりは、当市病院事業における「医療の質」の向上を考えるべき“時合”といえる。

「医療の質」を考えていくときには、ドナベディアン・モデル（1966年にアメリカのアベティス・ドナベディアンによって提唱された医療の質評価の考え方）が有効であり、このモデルでは医療の質を構造（ストラクチャー）、過程（プロセス）、結果（アウトカム）という3つの側面から評価する。以下、これに倣い当市病院事業について伺う。

(1) 構造について

構造（患者に、医療がどういった状態で提供されたのか）

- (ア) 現病院建物で発生する修繕費は年々増加しているのか
- (イ) 新病院の開院予定はいつか
- (ウ) 医師の確保について具体的にどのような対策を行っているか
- (エ) 看護師の確保について具体的にどのような対策を行っているか
- (オ) 医師・看護師以外で現在不足している職種はあるのか

(2) 過程について

過程（患者に、医療がどのように提供されたのか）

- (ア) 朝、エントランスの受付窓口で長蛇の列が並ぶ問題があるが、この原因は何か。対策案としてどのようなものが考えられるのか
- (イ) 待ち時間対策として現にどのようなものが行われているのか。未導入の待ち

時間対策にはどのようなものがあるのか

(ウ) 患者が目的の場所に迷わず辿りつくことができるように工夫していることはあるか。また、案内がわかりにくいなどの御意見が寄せられていないか

(エ) 市立総合病院の入院食は直営方式と委託方式のどちらで提供されているのか。また、両者の長所と短所はそれぞれ何で、今後はどちらを選択していくべきと考えているのか

(3) 結果について

結果（患者は、医療によってどうなったのか）

(ア) 患者の満足度などについての調査はいつどのように行われているのか

(イ) (ア)の調査結果について改善活動を行っているのか。行っている場合、具体的な成果は出たのか

9 岡田光正 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求める者 市長

1 市街化調整区域の規制緩和を求む

焼津市においては、1976年（昭和51年）10月12日に当初の線引きが行われ、その後、概ね5年ごとの見直しや随時見直しを行っており市街化調整区域内においても水産加工工場や冷蔵庫などが建設されています。現在、経済情勢の変化などにより、市街化調整区域内の工場、建物、住宅について増改築や設備機能の変更などに、多少の問題点が指摘されてきたため、市のお考えを伺うものです。

(1) 規制の現状について

ア 一般住宅においても老朽化による建て替え、増改築等に制限があるため困っているケースが聞かれるが把握されているか

イ 事業所を続けることができない場合に、工場等を売ったりすることができず、今後の生活をどうしようという声も聞かれるため、現状の基準等について伺う

(2) 規制が産業の発展の障害になっていないか

経営環境の変化に対応するため、施設の拡充が必要であるが近隣を購入して拡張することができないのであきらめ、他へ移転せざるを得ないとの声を聞くのがか

(3) 今後の対応について

工場等の譲渡や既存工場施設等の敷地拡張の取扱いについて、基準等の見直しが検討できないか伺う

2 道路の維持管理について

(1) 道路の維持管理について、本市の基本的な考えを伺う。

ア 本市の道路について見ると、特に舗装の補修の必要な箇所が多いということがまず目にとまります。さらに、センターラインやサイドラインが消えて安全上問題となりそうな箇所が散見されるため、現在の道路メンテナンス年間計画はどのようなになっているか伺います

イ 道路パトロールや市民からの通報・要望などに基づき、道路施設の破損などの

修繕対応をしてくださっているようですが基本的なパトロール及び予防保全的体制はどのようになっているのか、また市民からの通報等による対処方法を伺います

ウ 今後道路の維持管理費はますますふえると予想されます。自動車交通の増大と経年劣化などにより、修繕箇所が年々多くなっていくと思われるが予算対応は十分であるか伺います

(2) 道路そのものだけでなく周辺整備における部分も含めた維持管理についての考えを伺う

ア 街路樹（高木・低木）のメンテナンスはどのような方法で行っているのか伺います

イ 街路樹の根による、道路や歩道レンガの盛り上がり剥がれなどの修繕はどのように考えるか伺います

ウ 時折みられる道路清掃作業は、いつ、どのような計画でどう行っているのか伺います

(3) 道路の維持管理に、市民参加を進める取組について考えたらいかがか

道路は最も基本の社会基盤であり、それを使うのも市民です。したがって、道路の維持管理についても市民参加がもっと行われるべきであると考えております。

例えば、自宅前の道路の清掃や簡単な草刈りなどは、それぞれの市民の皆様により、もっと行われるべきではないか。道路の維持管理の分野への市民参加について本市もPRが必要ではないか伺います

10 増井好典 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求める者 市長

1 災害時における消防団の役割について

(1) 焼津市消防団の今後の役割について

一般家庭のオール電化、喫煙率の低下、燃えにくい建材の開発と使用など火災による消防団の出動は年々減少しています

また、突発的な集中豪雨や巨大化しつつある台風などの災害不安は年々増加しています

消防団は焼津市の下部組織ではありませんが地域とは密接な関係があります

以上のことを鑑み消防団の将来像をどのように捉えているかお伺いします

ア 消防団団員減少に伴い、団員増加の施策をお考えあればお伺いします

イ 火災活動以外の訓練や行政の立場からの訓練指導や提案はお考えでしょうかお伺いします

(2) 機能別消防隊について

機能別消防隊が発足して昼火災消火対応がなされています

また、大規模災害における出動も期待されています

機能別消防隊の今後の展望、展開について方針をお伺いします

ア 各分団における機能別消防隊員の身分や序列はどのような位置づけになっていますか

イ 機能別消防隊は特別な使命を持ち発足しました。この組織の更なる拡充或いは団員の増加などのお考えはありますか

2 空き家対策の今後について

今行われている空き家対策についてと今後の更なる展開と見通し等についてお伺いします。

空き家対策については行政としても奨励金や空き家バンクなど施策が展開されています

しかしながら、まだ市民の認知度は低く制度の理解利用度は十分とはいえない状況にあると感じます

より一層の理解と利用を推進すべき対策の必要を感じお伺いします

ア 現在、行われている空き家対策の成果についてお伺いします

イ 焼津市として更なる対策を講じる用意はありますか、お伺いします

11 杉崎辰行 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求める者 市長

一流の「水と食の安全」対策について一発展と持続可能な地域モデルを目指して一日本国憲法第25条は生存権をうたっており、「すべての国民は健康で文化的な最低限の生活を営む権利を有する」としている。

しかし、現在国が行っている法改正など、憲法の条文に逆らっているのかと思えるものが次から次へと出ている。これらは、世界の動きから見ても逆行していると言える。

最低限国民が望むもの、住民が求めるものを詳細に検証してみると、その対応策が見えてくる。

これをチャンスと捉え、この地で実現させ、地域の発展と持続可能な地域づくりのために質問する。

(1) 水資源の長期安定供給について

国土交通省によると、水道水をそのまま飲める国は、世界196ヶ国中15カ国、内2ヶ国は一部の都市のみとのことであるが、この水道に関して、1980年代から各国で民営化が始まった。

しかし2000年頃から、民営による不都合が限界に達し、再公営化の動きが広がっている。

そんな中、日本は民営化推進に動いている。2月定例議会の私の代表質問に市長は、「水道は、市民生活に必要な不可欠なライフラインとして、市民の生命と暮らしを守るという極めて重要な役割を担っておりますので、今後も安全な水道水を安定的に供給することができるよう、公営を維持してまいります」と答えて頂いた。

そこで、質問する。

(ア) この意志を条例など、明文化し焼津市の決意として表明できないか、伺う

(イ) 焼津市の水資源は、大井川水系の最末端であり 上流域の影響を最も受け

るので、同水系の自治体総ても公営維持とするための、働きかけをしているか、伺う

(ウ) リニアモーターカー工事に関して、大井川流域の10市町、11の利水団体が、昨年の8月2日にJR東海への要望活動を一本化する協議会を設立したので、これを機会に水道公営維持の為の広域的取組みを明文化できないか、伺う

(2) 食の安全について

次に、水と同じく生命と健康に大きく関わる食の安全に関して、市長は、2月定例議会で、種子法廃止の影響に関して「種子の研究、開発等については、道府県において引き続き研究開発がされるとともに、国の農業者支援につきましては、小規模農業者を含め、多様な農業者の所得向上に向けた取組みなどが進められているものと承知をしております」と答弁した。

また「生産現場の声を十分に聞きながら、地域の農業の発展に向けて全力で取り組んでまいりたいと思います」と答弁しているので、これに関連して質問する。

(ア) 全国の多くの自治体から国に対して、意見書が出されている内容の解釈と生産現場の声について、伺う

(イ) 静岡県に対して、種子を守る為の条例制定を要請ができないか、伺う

(ウ) この地域を、食の安全日本一にする為、大井川流域（水系）自治体とJA、それに農業生産者と消費者を含んだ「食の安全協議会」のようなものを設立する発議者にならないか、伺う

(3) 農薬使用に関して

次に、食の安全中、農薬に関して質問する。農薬に関しても、2月定例議会で質問しているが市長は、各種の対策の上「農薬の削減を促すとともに、安全管理体制の向上を図り、安全で安心な農作物の供給がなされるよう、引き続き対策を行ってまいります」と答弁しているので、これに関連して質問する。

(ア) 各種の取組み支援について、具体例とその効果を伺う

(イ) 農薬の削減について、何をどれだけ削減できたか、伺う

(4) 地域発展と持続可能な地域づくりについて

まとめとして、地域の発展と持続可能な地域のために、質問する。

(ア) 地域の安全性を前面に出した、広域的取組みについて着手して欲しいが如何か、伺う

(イ) 優れた水資源と、恵まれた気候、これを最大限に活かす地域発展は、農業にもあると考えるが、何をすれば最大効果が得られると考えるか、伺う

12 太田浩三郎 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求める者 市長

1 超高齢社会に於ける諸問題について

超高齢社会を迎えての行政課題について

先般の一般質問においては、「第8期ほほえみプラン」を中心に高齢者対策をお伺い致しました。社会参加には居場所の確保が大事な事として「居場所づくり」講座の開催や県との共催で社会参加促進フェアin焼津の開催、平成29年度より、地域

の困り毎や高齢者の社会参加について話し合う「協議体」の設置に取り組んでいる。現在、大井川地区、大富地区及び小川地区に地域協議体を設置により地域ささえあい協議体により、地域の困り毎などの解決に向けた互助による生活支援体制を行っているとの答弁でありました。当市は2025年には約8千人と推計される要支援・要介護者の高齢者を迎え、高齢者人口は4万強、高齢化率は31.4%となります。総務省の中間報告では、高齢化率・必要な介護職員・インフラや公共施設の更新費などの将来推計を提示し危機感を強調した。行政サービスの水準を維持するために複数の自治体が共同で提供出来るなどの対応を求めた。将来推計では2040年には高齢者が3,921万人に達し、義務教育を受ける5～14歳の人口は814万人に減る。介護職員は今の1.4倍近くまで上がる。と報告されています。当市では「地域共生社会」を実現する事が重要な課題となっていますと記述されています。それでは次のことについてお聞き致します。

ア 地域共生を実現するためには「地域包括ケアシステムの構築」を推進する事が必要と記載されていますが問題解決のための組織形態はどの様になっていますか
イ 第8期ほほえみプラン21の基本計画には7項目の基本方針が掲載されています。

これらを実行するには地域に支援される方々が必要になると思います。現在では民生委員・児童委員さんが支援していますが最近ではなり手が少なく、地域によっては配置されていないか、人数が満たない地域があるとお聞きしています。年齢制限や働き方改革として適した年齢の方が受けて頂けない現象が発生しています。問題解決の方法は

ウ 焼津市地域福祉計画・焼津市障害者計画・焼津市子ども・子育て支援事業計画等との連携を図りながら、包括的な相談体制による地域課題の解決に向けた体制づくりについて検討を進めます。と掲載されていますがどの様な連携を行っていますか

エ 支援団体の一つであります社会福祉協議会があります。各自治会の皆様にご協力頂き各種問題解決に取り組んで頂いています。又各種福祉団体の窓口となってご協力をいただいています。この自治会に福祉の窓口を設けて頂きお手伝いが出不来ないもののでしょうか。地域のことを一番ご理解しておられる皆様ですからスムーズに運営出来るかと思えます。但し、今でも防災・環自協・交通安全等抱えていますので簡単にはいかないかと思えます。が如何でしょうか

オ 一人暮らし高齢者896万人（2040年推計）との見出しがあり、一人暮らしをする65歳以上の高齢者が増加している。静岡県でも22,6万人・2015比増加率55.1%となっています。当市ではどの様な数に成っていますか。一人暮らしのお年寄りが増える事により、介護や地域の見守りなどのニーズがますます必要になります。高齢者を社会的に孤立させない為の支援策が必要と考えますが如何でしょうか

カ 生活保護を受給する高齢者世帯のうち単身世帯は9割に上る。明治大学教授は「低年金、無年金でも苦しくても、非婚化や晩婚化で扶養してくれる子どものいない人は今後も増える」と述べています。又「従来型の社会保障制度自体を変える時期が来ている」とも述べていました。当市での現状はどの様になっていますか。

2 超高齢社会に於ける各種行政手続きについて

(1) 身内等に於ける不幸や出産の手続きについて

藤枝市では、家族死亡後の遺族らの手続きを補助して負担を軽減する「ご遺族手続きコーナー」を開設。これにより市役所での手続きをワンストップで済ませ市民の負担を減らす事になると記載されていました。死亡届け後、手続きを行うには14課を回り一度の来庁では済まないケースがあった。市の担当者は「一カ所で全ての手続きを案内出来る。精神的にも肉体的にも疲労したご遺族に安心してもらえれば」と話した。

ア 当市においても検討出来ませんか

イ AIやIoTなどの技術の進展やマイナンバーの利用が進む中、各種行政手続きの簡略化や利便性の向上が検討出来ないものでしょうか

ウ 御殿場市では「お悔やみガイドブック」さらに「お誕生ハンドブック」を作成。

また、運転免許証の返納や車の名義変更など国や県の機関に届ける必要がある手続きも記載。クレジットカードの失効など民間企業が関わる事柄も盛り込まれた。

当市においても市民サービスの一環として実施出来ませんか

(2) 成年後見制度について

超高齢社会を迎え、判断力が低くなった高齢者らの意思を尊重しながら、その暮らしと財産を守るものです。最近では、後見人選びや報酬のあり方、横領などの不正、制度の使いにくさ等が問題提議されています。生活保護者との関係についてはあまり表面に出て来ませんでした。生活保護受給者は生活に必要な最低限度の金銭しか持っていない。その状況で判断力が低下し無計画な支出があれば、たちまち食費や家賃が払えなくなる。通帳を紛失し、支払いを忘れ、手続きが分からなくなり水道や電気が止まることもある。そしてセルフネグレクト（自己放任）となり衰弱に向かい命の危険に直結してゆく。その為には、成年後見人を選び金銭や健康が適切に管理されるように支援が必要となります。制度利用も費用が掛かるため、被保護者は事実上制度が利用出来ない環境にあります。国では、成年後見制度利用支援事業の仕組みを作り各自治体に提供したが自治体主導の制度の為、利用する自治体もあり、全く事業を行っていない市町村もあり地域格差が生じてしまった。しかし、貧困を支える生活保護と判断能力の低下を支える成年後見の二つは共に福祉の根幹であります。それでは質問致します。

ア 当市における生活保護受給者数は何人ですか

イ 年齢構成はどのような状態になっていますか

ウ 高齢者で一人暮らしをする65歳以上の対象受給者は何人ですか

エ 成年後見制度の利用者はいますか

オ 何人の方が利用されていますか

カ 国でも成年後見制度利用支援事業を進めようとしています。当市においては如何でしょうか

13 安竹克好 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求める者 市長

1 焼津市における公共交通の現状と取組みについて

(1) 自主運行バスの現状について

運転免許を持たない高齢者などの移動手段の一つである自主運行バスの現状について伺う。

(ア) 現在の利用状況について伺う

(イ) 路線拡大の計画について伺う

(ウ) 自主運行バスの運営上の課題について伺う

(2) デマンド型乗り合いタクシーについて

公共交通空白地域における公共交通導入の現状と、今後の計画について伺う。

(ア) 下根方地区試験運行終了後はどのような計画か伺う

(イ) 焼津 I C 周辺地域におけるデマンド型乗り合いタクシーの試験運行はどのように運行されるか伺う

(ウ) 豊田地区での試験運行は可能か伺う

2 東京オリンピック・パラリンピックに向けて

(1) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会までのモンゴル国代表チームとの交流について

ア 一年後に開催を控えた東京2020大会までの期間におけるモンゴル国代表チームに対する支援について伺う。

(ア) 直前までの強化合宿をどのように受け入れるのか伺う

(イ) 強化合宿期間中における代表チームとの交流については、どのような取組みを計画しているか伺う

イ ホストタウンとしての取組みについて伺う。

(ア) 市民のモンゴル国に対する関心の高まりはどのようなか伺う

(イ) オリンピックまで関心度を更に高める取組みを、どのように計画をしているか伺う

(2) モンゴル国代表チーム以外での交流について

青少年のスポーツ交流について伺う。

(ア) 昨年度、モンゴル国を訪問して実施した青少年スポーツ交流の成果を伺う

(イ) 今年度の青少年によるスポーツ交流はどのような内容か伺う